第２章　吉田構内総合研究棟新営に伴う発掘調査

第１節　試掘調査

1　調査の経過

平成11年度補正予算で平成12年度の総合研究棟新営工事が計画され、平成12年２月３日開催の埋蔵文化財資料館運営委員会にて、その取り扱いが協議された。この段階では工事予定地が決定していなかったが、いずれの候補地においても地下の状況が不明で試掘調査が必要と判断されることから、十分な調査期間を確保することを前提とした上で、新営予定地等決定後、再度審議することとなった。予定地の決定に伴い、同年３月３日開催の運営委員会で審議を行った結果、試掘調査を実施することになった。

新営予定地はRI実験研究施設の南側に位置する。敷地内東縁部においては、昭和60年度に農学部附属農場飼料園排水溝修復整備に伴う立会調査[1)]が実施され、南端部で古墳時代・中世の遺物包含層、河川跡が検出されたが、この河川は近年の調査から埋没谷であることが明らかとなっている。今回の調査でもその延長部分が検出されることが予想された。以上を踏まえて、試掘調査は平成12年４月17日～５月19日にＡ～Ｄトレンチを設定して実施した。調査面積はＡトレンチが91.6㎡、Ｂトレンチが68.7㎡、Ｃトレンチが74.7㎡、Ｄトレンチが24.0㎡、Ｅトレンチが11㎡、合計270㎡である。

なお、調査区西部では造成土が厚く脆弱であったことから調査時の降雨による壁面の崩落が相次いだ。このため、顕著な遺構・遺物が見られなかったＢトレンチ西部、Ｄ・Ｅトレンチは直ちに埋め戻した。

Fig.4　調査区位置図

2　基本層序（Fig. 6，PL. 3・4）

煩雑を避けるため、次節の事前調査の成果を加味した基本層序を記載する。基本層序は、第Ⅰ層：表土、第Ⅱ層：造成土、第Ⅲ層：水田耕土、第Ⅳ層：水田床土、第Ⅴ層：谷埋土１、第Ⅵ層：谷埋土２、第Ⅶ層：縄文～弥

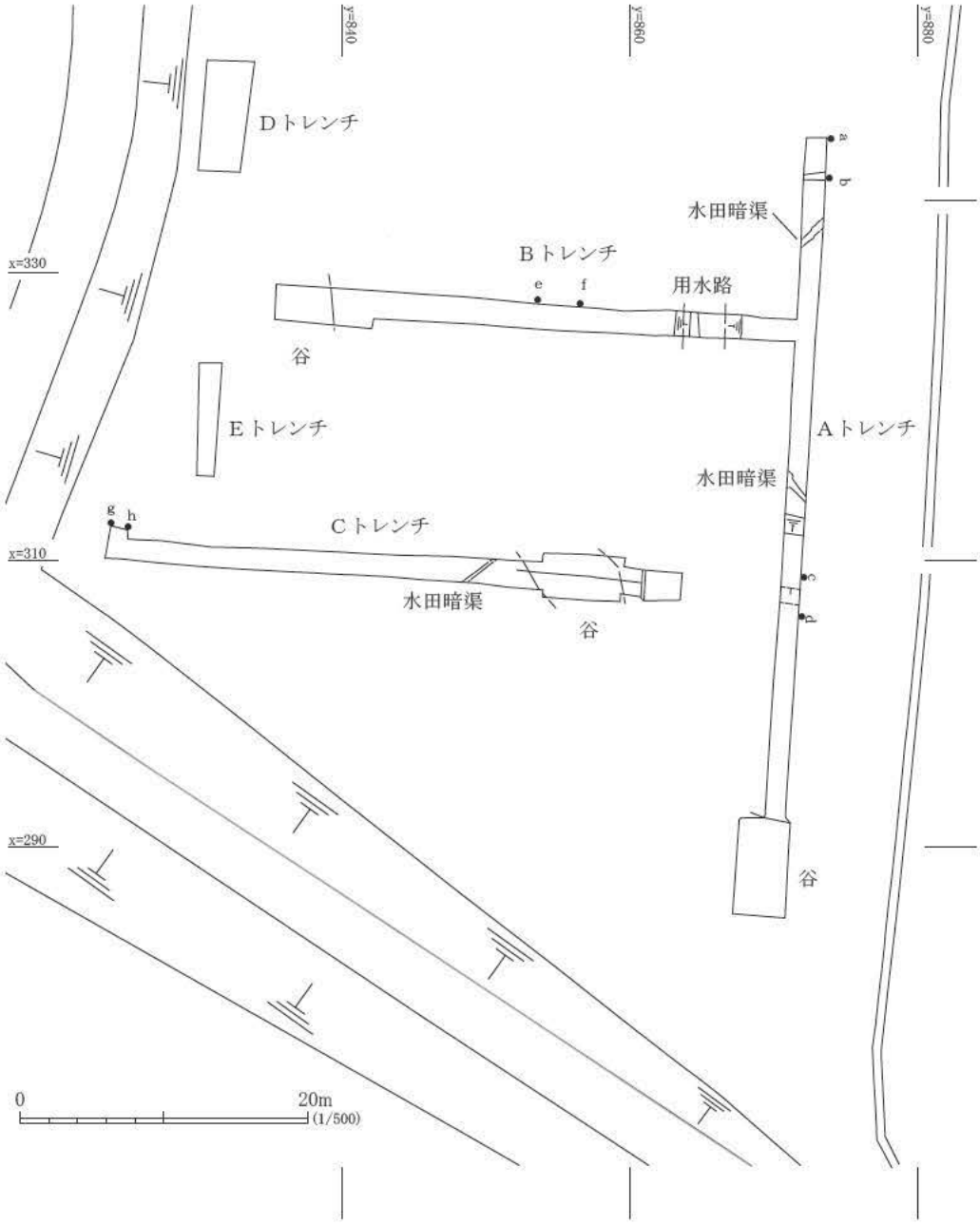


Fig.5 調査区設定位置図

生時代谷埋土１、第Ⅷ層：縄文～弥生時代谷埋土２である。

新営予定地は調査直前まで牧草地として利用されていた。 Ａ調査区北部（ａ－ｂ断面）では、第Ⅰ層の層厚が約15㎝でその直下、標高24.9ｍで第Ⅲ層が認められた。Ｂトレンチでは用水路以西が低く、同ｅ－ｆ断面では標高約24.2ｍで第Ⅲ層が検出されたことから、統合移転時に標高の低い西側を埋めて牧草地としたことが判明した。

第Ⅴ層以下は谷の埋土である。第Ⅴ層は中世の遺物を含む。Ｂトレンチ東部、Ａトレンチｃ－d断面では削平されており、直上に第Ⅳ層が認められた。Ａトレンチｃ－ｄ断面ではⅤ・Ⅷ層が北側へ立ち上がっていたが、棚田造成時の削平のため、本来の肩部は確認できなかった。第Ⅵ層は調査当時河川跡ととらえた古代の谷埋土である[2)]。この段階の谷筋はＡトレンチ南部、Ｃトレンチ東部、Ｂトレンチ西部で認められ、南東から北西方向に延びていた。

試掘調査では第Ⅶ層から遺物は出土していない。第Ⅷ層は地山（弥生時代以降の遺構面形成層）である。Ａトレンチ北部（ａ－ｂ断面）ではシルト質の層序が連続していた。一方、他の箇所においては粗砂層やシルト・粗砂・礫の互層が認められ、弥生時代以前の谷の堆積土である可能性があるため、縄文～弥生時代谷埋土２とした。

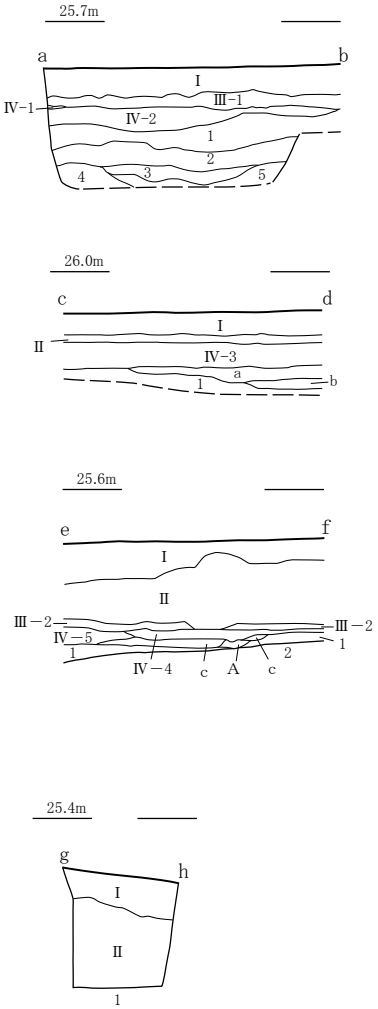
３　遺構・遺物（Fig. 5, PL. 3）

Ａトレンチで水田暗渠２条、Ｂトレンチで用水路１条、Ｃトレンチで水田暗渠１条を検出したのみである。近世に棚田が造成された段階で遺構が削平を受けた可能性が高い。

Ａトレンチ南部・Ｃトレンチ東部の谷埋土１からは古代の土師器、須恵器、中世の瓦質土器、谷埋土２からは古代の土師器、須恵器が出土した。また、壁面崩落土から近世～近代の陶磁器が少量出土した。Ａトレンチ南部からＣトレンチ東部は事前調査で再掘削しており、谷埋土２出土土器には接合するものがあることから、次節でまとめて報告する。

４　小結

今回の調査では、顕著な遺構は検出されなかったが、埋没谷を検出した。また、谷筋はＡトレンチ南部、Ｃトレンチ東部、Ｂトレンチ西部で認められ、南東から北西方向に延びていることが判明したほか、谷埋土１・２には古代の土師器、須恵器が多く含まれていたことから、予定地内に古代を中心とする遺構・遺物の存在が確実視された。以上の調査結果について、平成12年５月17日開催の埋蔵文化財資料館運営委員会で審議した結果、事前調査を実施することになった。



a-b 断面
Ⅰ 表土
Ⅲ－1　水田耕土　暗緑灰色（7.5GY8/1）土
Ⅳ－1　水田床土　黄橙色（10YR7/8）土
Ⅳ－2　水田床土　浅黄色（7.5Y7/3）土
縄文～弥生時代谷埋土２
1　明褐色（7.5YR5/8）粘土
2　明黄褐色（2.5Y6/6）シルト
3　明黄褐色（2.5Y7/6）シルト　２～３㎝大の礫を含む
4　黄色（2.5Y7/8）シルト
5　灰白色（10YR8/1）粘土　黄色（2.5Y7/8）シルトブロックを含む

c-d 断面
Ⅰ　表土
Ⅱ　造成土
Ⅳ－3 水田床土　にぶい黄褐色（10YR4/3）土
谷埋土１
a 黒褐色（10YR3/2）土
b 暗オリーブ色（5Y4/3）土
縄文～弥生時代谷埋土２
1 明黄褐色（10YR6/6）粘土　４～５㎝大各礫含む

e-f 断面
Ⅰ　表土
Ⅱ　造成土
Ⅲ－2　水田耕土　オリーブ灰色（7.5Y5/2）土
Ⅳ－4　水田床土　灰オリーブ色（7.5Y4/2）土と
Ⅳ－5　水田床土　Ⅳ－4と１のブロック土
谷埋土１
c　黒褐色（2.5Y3/1）土
縄文～弥生時代谷埋土２
1　オリーブ黄色（5Y6/4）粗砂
2　明黄褐色（2.5Y7/6）粗砂
A 暗渠埋土　暗灰黄色（2.5Y4/2）粗砂

g-h 断面
Ⅰ　表土
Ⅱ　造成土
縄文～弥生時代谷埋土２
1　黄橙色（10YR8/6）シルト　６～７㎝大の礫を多く含む
　灰白色（10YR8/1）シルトブロック含む

0　4m
(1/80)

Fig.6　調査区断面図

［注］

1）山口大学埋蔵文化財資料館「農学部附属農場排水溝修復整備に伴う試掘調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅴ』、1986年）

2）山口大学埋蔵文化財資料館「平成７・10～14年度山口大学構内遺跡調査の概要」（『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅥ・ⅩⅦ』、2004年）

第２節　事前調査

１　調査の経過

試掘調査の結果を受けた埋蔵文化財資料館運営委員会の審議の結果、試掘調査に引き続き事前調査を実施することになった。調査区の設定にあたっては、試掘調査の結果を踏まえて新営建物予定地内に延びる谷筋とその周辺を対象とし、試掘調査Ａトレンチから新営建物予定地の間は古代の谷埋土上面まで検出し、記録作業を行った。調査期間は平成 12 年５月 23 日～７月 31 日、調査面積は 807 ㎡である。調査区内はⅠ～Ⅳ区に区分し、安全確保のため、出入口２箇所を除き２段掘りとした。また、調査の概要については平成 12 年８月１日に記者発表を行った。

２　基本層序（Fig. 9～12, PL. 7～9）

基本層序は、第Ⅰ層：表土、第Ⅱ層：造成土、第Ⅲ層：水田耕土、第Ⅳ層：水田床土、第Ⅴ層：谷埋土１、第Ⅵ層：谷埋土２、第Ⅶ層：縄文～弥生時代谷埋土１、第Ⅷ層：縄文～弥生時代谷埋土２である。旧地形は南東から北西方向に傾斜していた。

第Ⅴ層以下は谷埋土であるが、肩部は検出していない。第Ⅴ層：谷埋土１は古代・中世の遺物を含む。土器は細片が多いが、時期が判断できる土器のほとんどが古代の土器であり、中世の瓦質土器がわずかに含まれていた。調査時は中世の耕土もしくは床土で、近世に下る可能性も考えたが、確実な近世以後の遺物を含まないこと、直下において畦や溝などの関連遺構はなく、地形に沿って堆積しているため、最終段階の谷埋土と位置づけた。第Ⅴ層はシルト質主体でⅠ区東壁（Ⅰ－Ｊ断面）では標高25.55ｍで検出し、３層で層厚42㎝、Ⅱ区北東壁（Ｅ－Ｆ断面）南部では標高25.2ｍで検出し、単層で層厚50㎝であった。しかし、Ⅲ区北東壁（Ｅ－Ｆ断面）では水田暗渠４から西側に第Ⅴ層がなく層厚45～70㎝の第Ⅱ層、その直下で第Ⅲ層が認められた。Ⅳ区南西壁（Ａ－Ｂ断面）

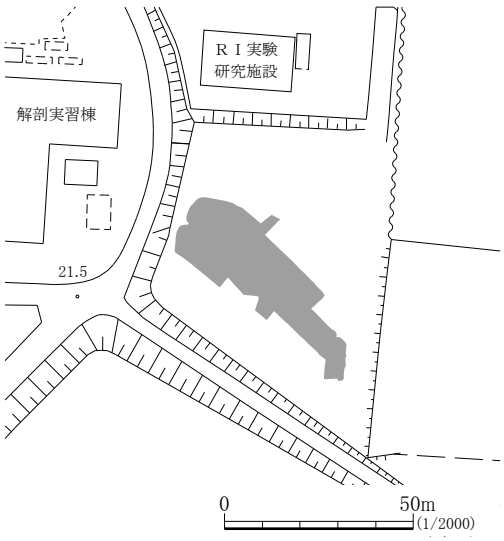


Fig.7　調査区位置図

でも用水路から北側は削平されており、Ⅳ区北壁（Ｃ－Ｄ断面）では層厚50㎝の第Ⅱ層の直下で第Ⅲ層が認められた。以上から、試掘調査で確認したように、旧地形が棚田造成時に削平され、統合移転時に埋め立てられたことがわかる。Ⅴ層に含まれる遺物はⅠ・Ⅱ区に集中しており、北西側ほど少なくなる傾向が認められた。

第Ⅵ層：谷埋土２は古代に属する。調査時に河川跡ととらえていたのは最深部の落ち込み部分で、南西－北側へ蛇行している。Ⅰ区東壁（Ⅰ－Ｊ断面）では標高25.2ｍで検出し、12層に細分した。層厚は最も厚い箇所で66㎝であった。遺物は上層、特に最上層の１層に集中する。堆積状況から４層以下も第Ⅵ層に含めたが他時期の可能性もある。１層と一連のシルト層はⅣ区まで分布しており、最下部には礫が多く含まれる箇所もあった。Ⅳ区北壁（Ｃ－Ｄ断面）では標高23.1ｍで検出し、６層で層厚40㎝であったが、遺物は出土しなかった。

第Ⅶ層：縄文～弥生時代谷埋土１は、谷の最深部にのみ堆積する。Ⅲ区で弥生時代中期末～後期の土器、Ⅳ区で縄文土器、石鏃を含んでいたが、最深部の掘削を行った大半の箇所からは遺物が出土しなかった。しかし、Ⅲ区で出土した弥生時代中期末～後期の土器は、当該期の集落が調査区周辺に存在した可能性を示す貴重な資料となった。層序は複雑で、Ⅲ区Ｍ－Ｎ断面、Ⅳ区北壁（Ｃ－Ｄ断面）に見られるように細砂・粗砂・砂礫層から形成され、谷埋土２に切られている。詳細な時期は不明であるが、縄文～弥生時代における複数回の水流による堆積層と考えられる。遺物が出土していない箇所では、Ⅷ層と比較してしまりがないこと、切り合い関係から両者を区別した。

第Ⅷ層：縄文～弥生時代谷埋土２は、地山（弥生時代以降の遺構面形成層）である。調査区内ではシルト・粗砂・礫層の互層となっており、詳細な時期は不明であるが、弥生時代以前の水流による堆積層と考えられる。第Ⅵ・Ⅶ層と比較して堅くしまりがあり、谷最深部においては湧水も顕著であった。遺物が含まれている可能性を考え、Ⅲ区・Ⅳ区でサブトレンチを設けて精査したが、遺物は出土しなかった。Ⅰ区試掘Ａトレンチ西側付近で標高24.8ｍ、試掘Ｂトレンチ付近では標高22.35ｍで検出しており、2.45ｍの高低差があった。

第Ⅴ層・Ⅵ層出土の古代の遺物はⅠ・Ⅱ区に集中しており、かつ北西部ほど少なくなる傾向から、これらの遺物は調査区南東部側から廃棄されたものと考えられる。新営建物予定地はⅡ区北半以北であったが、谷の最深部については、試掘調査Ａ～Ｃトレンチを拡張・精査し、谷埋土２上面を検出した結果、Ⅳ区から遺物の出土がきわめて少なかったため、Ⅳ区の掘削は一部を除いて行わなかった。

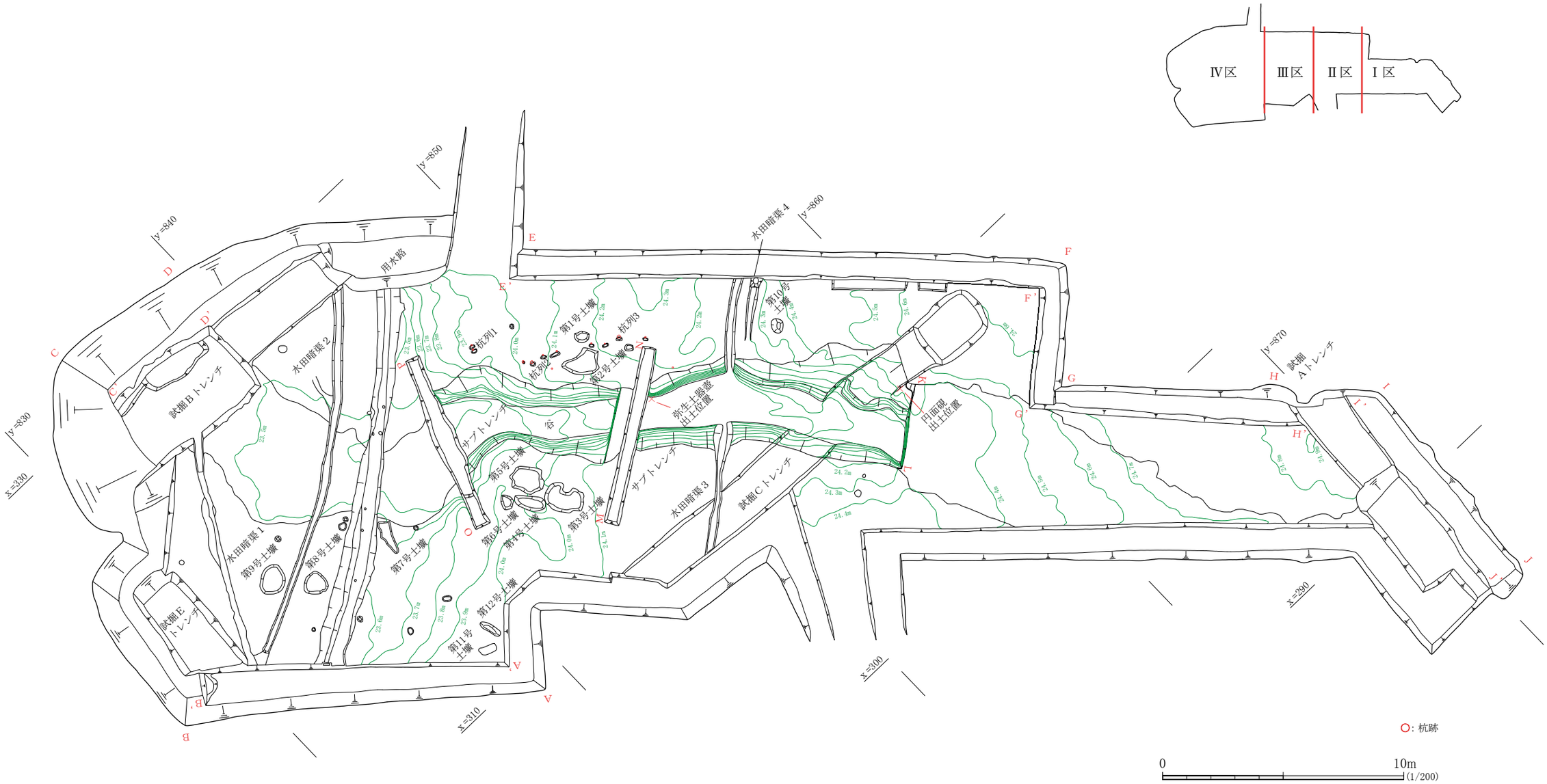
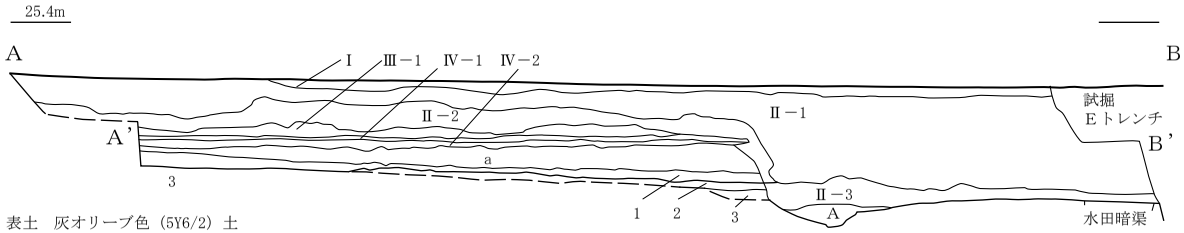
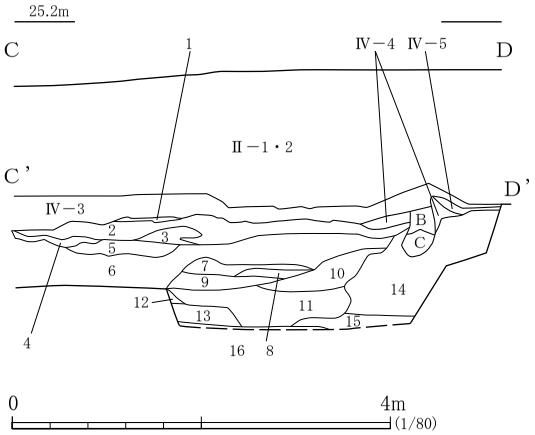

Ⅳ区
Ⅲ区
Ⅱ区
Ⅰ区
用水路
水田暗渠2
試掘Bトレンチ
水田暗渠1
第9号土壙
第8号土壙
第7号土壙
試掘Eトレンチ
第11号土壙
第12号土壙
第6号土壙
第5号土壙
第4号土壙
第3号土壙
第1号土壙
第2号土壙
第10号土壙
杭列1
杭列2
杭列3
サブトレンチ
谷
弥生土器出土位置
中面層出土位置
水田暗渠3
試掘Cトレンチ
水田暗渠4
試掘Aトレンチ
y=830
y=840
y=850
y=860
y=870
x=330
x=310
x=300
x=290
○: 杭跡
0
10m
(1/200)

Fig.8 調査区平面図

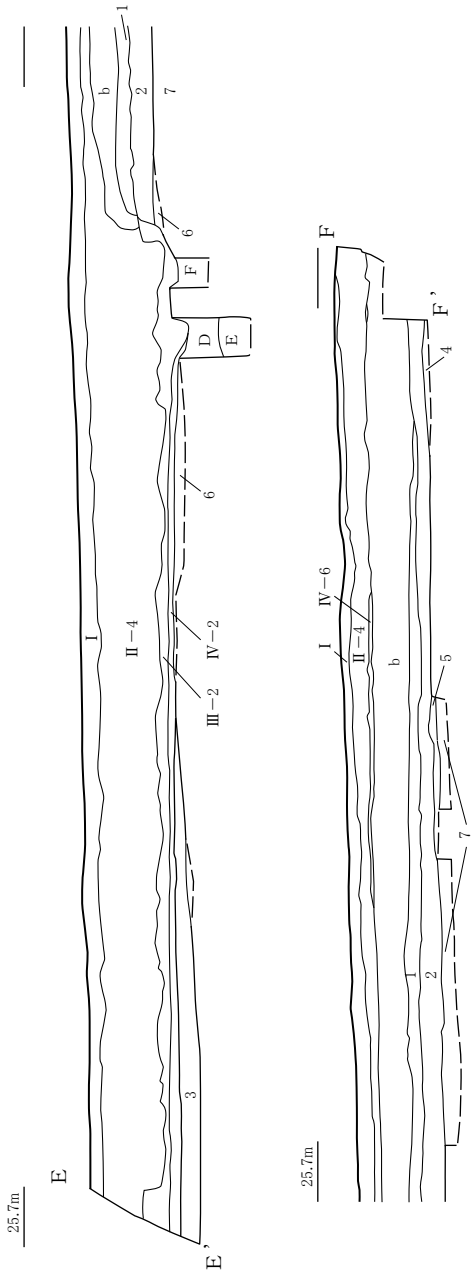


Ⅰ　表土　灰オリーブ色（5Y6/2）土
Ⅱ－1　造成土　浅黄色（2.5Y7/3）土
Ⅱ－2　造成土　にぶい黄色（2.5Y6/3）土
Ⅱ－3　造成土　Ⅲ－1と同じ
Ⅲ－1　水田耕土　暗緑灰色（7.5GY4/1）土
Ⅳ－1　水田床土　浅黄色（2.5Y7/4）土
Ⅳ－2　水田床土　明黄褐色（2.5Y7/6）土
谷埋土1
a　黄褐色（2.5Y5/3）土
谷埋土2
1　褐灰色（10YR4/1）土
2　褐色（10YR4/4）土
縄文～弥生時代谷埋土2
3　にぶい黄褐色（10YR5/4）粘土　0.5～10㎝大の礫を含む
A　用水路埋土　黄灰色（2.5Y4/1）シルト



Ⅱ－1・2　造成土
Ⅳ－3　床土　明褐灰色（7.5YR7/2）土
Ⅳ－4　床土　にぶい黄橙色（10YR7/3）土
Ⅳ－5　床土　淡黄色（10YR8/4）土
谷埋土2
1　黒色（10YR2/1）粗砂
2　黒色（10YR2/1）シルト
3　褐灰色（10YR4/1）シルト　2～3㎝大の礫を多く含む
4　褐灰色（10YR4/1）粗砂
5　褐灰色（10YR5/1）礫
6　褐灰色（10YR6/1）　2～6㎝大の礫を多く含む
縄文～弥生時代谷埋土1
7　にぶい赤褐色（5YR5/4）礫
8　暗青灰色（5B3/1）礫
9　灰色（5Y6/1）礫
10　明緑灰色（7.5GY8/1）粗砂　同色シルト・5～6㎝大の礫を含む
11　橙色（7.5YR6/6）礫　17のブロックを含む
縄文～弥生時代谷埋土2
12　明緑灰色（5B7/1）シルト
13　黄色（2.5Y7/8）礫
14　黄橙色（10YR8/8）粗砂
15　橙色（5YR7/8）粗砂　2～3㎝大の礫を多く含む
16　12と同じ
B　水田暗渠埋土　黒色（10YR2/1）シルトに14をブロック状に含む
C　水田暗渠埋土　枝・竹

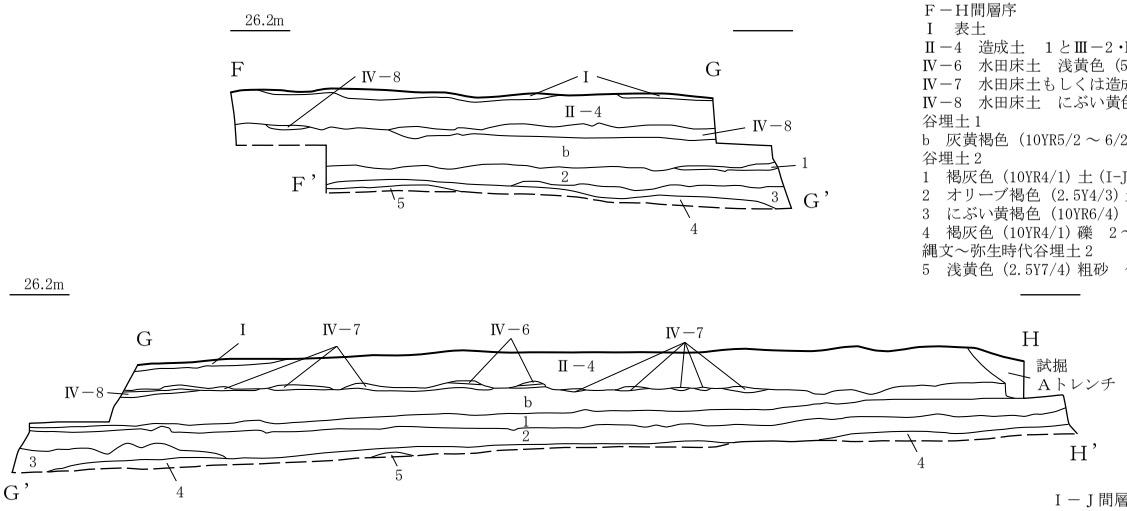
Fig.9　調査区断面図①



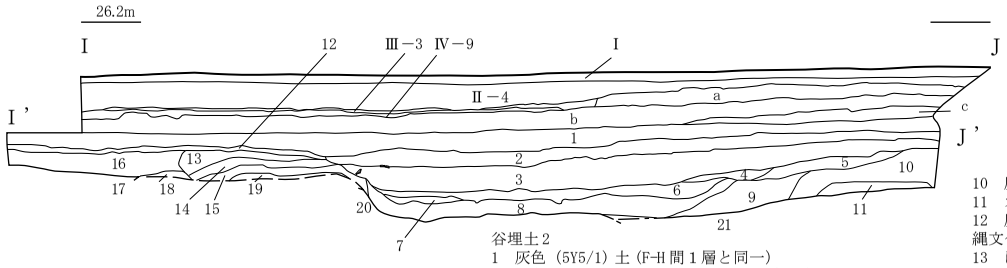
Ⅰ　表土　灰オリーブ色（5Y6/2）土
Ⅱ－4　造成土　1とⅢ－2・Ⅳ－2のブロック土
Ⅲ－2　水田耕土　暗緑灰色（7.5GY4/1）土
Ⅳ－2　水田床土　明黄褐色（2.5Y7/6）土
Ⅳ－6　水田床土　浅黄色（5Y7/3）土
谷埋土1
b　灰黄褐色（10YR5/2）土
谷埋土2
1　褐灰色（10YR4/1）土
2　オリーブ褐色（2.5Y4/3）土
3　1と同じ
4　褐灰色（10YR4/1）礫　～5㎝大の礫を含む
5　黒褐色（2.5Y3/2）土
縄文～弥生時代谷埋土2
6　灰オリーブ色（5Y5/3）粗砂　～5㎝大の礫を多く含む
7　黄褐色（2.5Y5/6）シルト　～5㎝大の礫を含む
D　水田暗渠3埋土　2に灰オリーブ色（2.5Y5/4）粗砂・～5㎝大の礫を多く含む
E　水田暗渠3埋土　松の枝
F　水田暗渠4埋土　Dと同じ

0　4m（1/80）

Fig.10　調査区断面図②



F－H間層序
Ⅰ　表土
Ⅱ－4　造成土　1とⅢ－2・Ⅳ－2のブロック土
Ⅳ－6　水田床土　浅黄色（5Y7/3）土
Ⅳ－7　水田床土もしくは造成土　灰黄褐色（10YR5/2）土
Ⅳ－8　水田床土　にぶい黄色（2.5Y6/3）土
谷埋土1
b　灰黄褐色（10YR5/2～6/2）土
谷埋土2
1　褐灰色（10YR4/1）土（I-J間1層と同一）
2　オリーブ褐色（2.5Y4/3）土
3　にぶい黄褐色（10YR6/4）シルト　～5㎝大の礫を含む
4　褐灰色（10YR4/1）礫　2～3㎝大の礫主体　粗砂を多く含む
縄文～弥生時代谷埋土2
5　浅黄色（2.5Y7/4）粗砂　～5㎝大の礫を含む

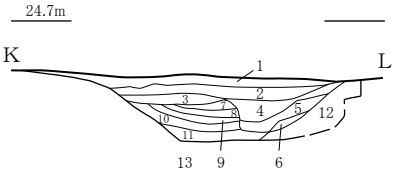


Ⅰ－J間層序
Ⅰ　表土
Ⅱ－4　造成土　1とⅢ－2・Ⅳ－2のブロック土
Ⅲ－3　水田耕土　灰オリーブ色（7.5Y6/2）土
Ⅳ－9 水田床土　浅黄色（2.5Y7/4）土
谷埋土1
a　にぶい黄橙色（10YR6/3）土
b　にぶい黄褐色（10YR5/3）土
c　黒褐色（10YR3/1）土

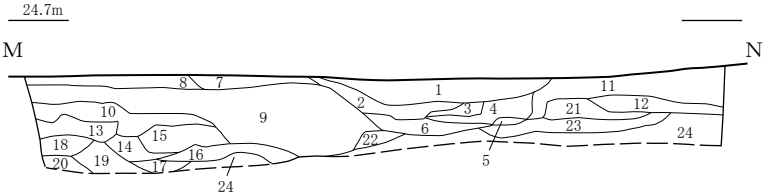
谷埋土2
1　灰色（5Y5/1）土（F-H間1層と同一）
2　灰色（5Y5/1）土　2～3㎝大の礫を多く含む
3　灰色（5Y6/1）シルト
4　灰色（7.5Y6/1）粗砂　2～3㎝大の礫を含む
5　灰白色（7.5Y7/1）粗砂　2～3㎝大の礫を多く含む
6　黒色（5Y2/1）シルト
7　灰色（5Y5/1）粘土
8　灰色（10Y5/1）粗砂　2～3㎝大の礫を多く含む
9　灰白色（10Y8/2）粗砂　2～3㎝大の礫を多く含む
10　灰白色（10Y8/2）粗砂
11　オリーブ灰色（10Y6/2）粗砂　2～3㎝大の礫を多く含む
12　灰オリーブ色（5Y6/2）礫　2～3㎝大の礫を含む
縄文～弥生時代谷埋土2
13　にぶい黄色（2.5Y6/3）礫　粗砂を多く含む
14　にぶい赤褐色（5YR5/4）礫　2～3㎝大の礫
15　にぶい赤褐色（5YR5/4）粗砂　2～3㎝大の礫を多く含む
16　にぶい黄色（2.5Y6/3）シルト　2～3㎝大の礫を含む
17　浅黄色（5Y7/4）シルト　4～5㎝大の礫を多く含む
18　灰白色（5Y8/2）シルト　黄褐色（10YR8/8）シルトブロックを含む
19　黄色（2.5Y8/6）粗砂　2～3㎝大の礫を含む
20　17と同じ
21　浅黄色（5Y7/4）粗砂　2～3㎝大の礫を含む

0　4m
(1/80)

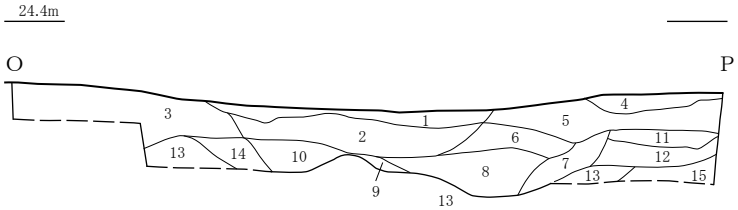
Fig.11　調査区断面図③



谷埋土２
1　灰色（10Y4/1）シルト
2　黒色（10Y2/1）シルト
3　暗灰色（N3/0）シルト
4　暗灰色（N3/0）シルト　粗砂をブロック状に含む
5　暗灰色粗砂
6　灰色（10Y6/1）粗砂
7　暗灰黄色（2.5Y5/2）粗砂　２～３㎝大礫含む
8　灰色（5Y4/1）粗砂
9　７と同じ
10　灰色（10Y6/1）粗砂
11　暗灰黄色（2.5Y5/2）粗砂　３～７㎝大礫含む
縄文～弥生時代谷埋土１
12　黄褐色（2.5Y5/3）粗砂
縄文～弥生時代谷埋土２
13　明黄褐色（2.5Y6/8）粗砂 ３～７㎝大の礫を含む



谷埋土２
1　黄灰色（2.5Y4/1）シルト
2　黒色（10Y2/1）細砂
3　灰色（10Y5/1）粗砂
4　２と同じ
5　３と同じ
6　３・５と同じ
縄文～弥生時代谷埋土１
7　灰白色（10YR7/1）細砂　粗砂・２～３㎝大の礫を含む
8　にぶい黄褐色（10YR5/4）粗砂
9　黄褐色（2.5Y5/3）粗砂　３～７㎝大の礫を含む
10　明黄褐色（2.5Y6/6）粗砂
11　灰白色（5Y7/2）粗砂　３～７㎝大の礫を含む
12　明黄褐色（2.5Y6/6）粗砂　２～３㎝大の礫を含む
縄文～弥生時代谷埋土２
13　明黄褐色（2.5Y7/6）シルト
14　明黄褐色（10YR6/8）礫　３～７㎝大の礫を含む
15　13と同じ
16　明黄褐色（10YR6/8）粗砂　２～３㎝大の礫を含む
17　明黄褐色（2.5Y6/6）細砂
18　明青灰色（10BG7/1）粗砂　２～３㎝大の礫を含む
19　明黄褐色（2.5Y7/6）粗砂　２～３㎝大の礫を含む
20　明青灰色（10BG7/1）シルト
21　黄色（2.5Y7/8）シルト
22　黄褐色（10YR5/6）粗砂
23　黄褐色（10YR5/6）粗砂
24　縄文～弥生時代谷埋土２　黄橙色（10YR7/8）シルト



谷埋土２
1　灰色（10Y4/1）シルト
2　灰色（10Y5/1）粗砂　２～３㎝大の礫を含む
縄文～弥生時代谷埋土１
3　黄褐色（2.5Y5/3）粗砂　３～７㎝大の礫を含む
4　オリーブ黄色（5Y6/3）粗砂
5　３と同じ
6　黄灰色（2.5Y5/1）粗砂　３～15㎝大の礫を含む
7　オリーブ黄色（5Y6/3）粗砂
8　暗灰黄色（2.5Y4/2）粗砂　２～３㎝大礫を含む
9　浅黄色（5Y7/3）粗砂　２～３㎝大礫を含む
10　８と同じ
11　明黄褐色（2.5Y7/6）シルト
12　黄褐色（2.5Y5/3）礫　粗砂を少量含む
13　縄文～弥生時代谷埋土２　明青灰色（10BG7/1）シルト
14　縄文～弥生時代谷埋土２　黄色（2.5Y7/8）シルト
粗砂・２～３㎝大礫を多く含む
15　縄文～弥生時代谷埋土２　黄褐色（2.5Y5/3）礫　粗砂・１０～１７㎝大の礫を少量含む

Fig.12　調査区断面図④

３　遺構（Fig.13・14, PL.10（3）（4）・PL.11）

今回の調査では、第Ⅷ層を検出面として、用水路１条、水田暗渠４条、土壙 12 基と杭列・ピットを検出した。用水路と水田暗渠は、棚田に伴うもので、いずれも地形に沿った南西－北東方向に流路方向を持つ。土壙のうち、第１～ 10 号土壙は埋土が直上に堆積していた第Ⅵ層と近似しており、埋土が単層であることから、自然地形の落ち込みであった可能性がある。また、配置に規則性が見られないことから、掘立柱建物の柱穴であった可能性は低い。第 11・12 号土壙は棚田に伴う遺構である。

第１号土壙（Fig.13, PL.10（3））

平面形が楕円形で長軸 69 ㎝、短軸 49 ㎝、検出標高は 23.88 ｍで、深さは検出面から 15 ㎝である。埋土は単層で、褐灰色（10YR4/1）土であった。出土遺物はない。

第２号土壙（Fig.13, PL.10（3））

平面形は不整形で、長軸 147 ㎝、短軸 110 ㎝、検出標高は 23.82 ｍで、深さは検出面から 13 ㎝である。埋土は単層で、褐灰色（10YR4/1）土。須恵器甕胴部片が出土した。

第３号土壙（Fig.13, PL.10（4））

平面形は不整形で、長軸 164 ㎝、短軸 82 ㎝、検出標高は 23.74 ｍで、深さは検出面から 21 ㎝である。埋土は単層で、褐灰色（10YR4/1）土であり、須恵器坏口縁部片が出土した。

第４号土壙（Fig.13, PL.11（1））

平面形は長楕円形で、長軸 130 ㎝、短軸 60 ㎝、検出標高は 23.7 ｍで、深さは検出面から 17 ㎝である。埋土は単層で、褐灰色（10YR4/1）土であった。出土遺物はない。

第５号土壙（Fig.13, PL.11（1））

平面形は不整形で、長軸 143 ㎝、短軸 111 ㎝、検出標高は 23.68 ｍで、深さは検出面から 22 ㎝である。埋土は単層で、褐灰色（10YR4/1）土であった。出土遺物はない。

第６号土壙（Fig.14, PL.11（1））

平面形は不整形で、長軸 61 ㎝、短軸 49 ㎝、検出標高は 23.7 ｍで、深さは検出面から 17 ㎝である。埋土は単層で、褐灰色（10YR4/1）土であった。出土遺物はない。

第７号土壙（Fig.14, PL.11（2））

平面形は不整形で、長軸 149 ㎝、短軸 61 ㎝、検出標高は 23.67 ｍで、深さは検出面から 11 ㎝である。埋土は単層で、褐灰色（10YR4/1）土であった。出土遺物はない。

第８号土壙（Fig.14, PL.11（3））

平面形は楕円形で長軸 98 ㎝、短軸 95 ㎝、検出標高は 23.45 ｍで、深さは検出面から

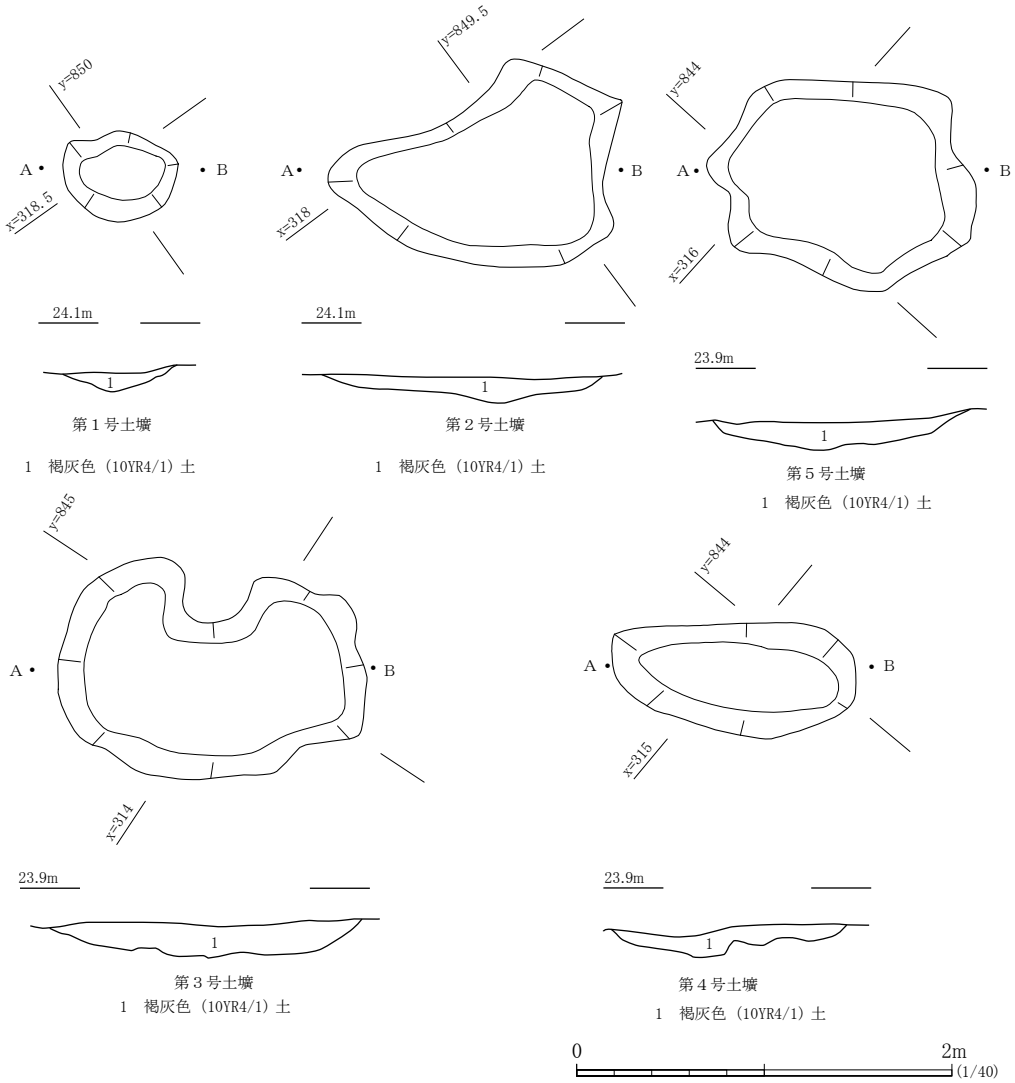


Fig.13　遺構平面図・断面図①

11 ㎝である。埋土は単層で、褐灰色（10YR4/1）土とにぶい黄褐色（10YR5/4）土とのブロック土であった。出土遺物はない。

第９号土壙（Fig.14, PL.11（4））

平面形は楕円形で長軸 129 ㎝、短軸 103 ㎝、検出標高は 23.35 ｍで、深さは検出面から 23 ㎝である。埋土は単層で、褐灰色（10YR4/1）土とにぶい黄褐色（10YR5/4）土とのブロック土であった。出土遺物はない。

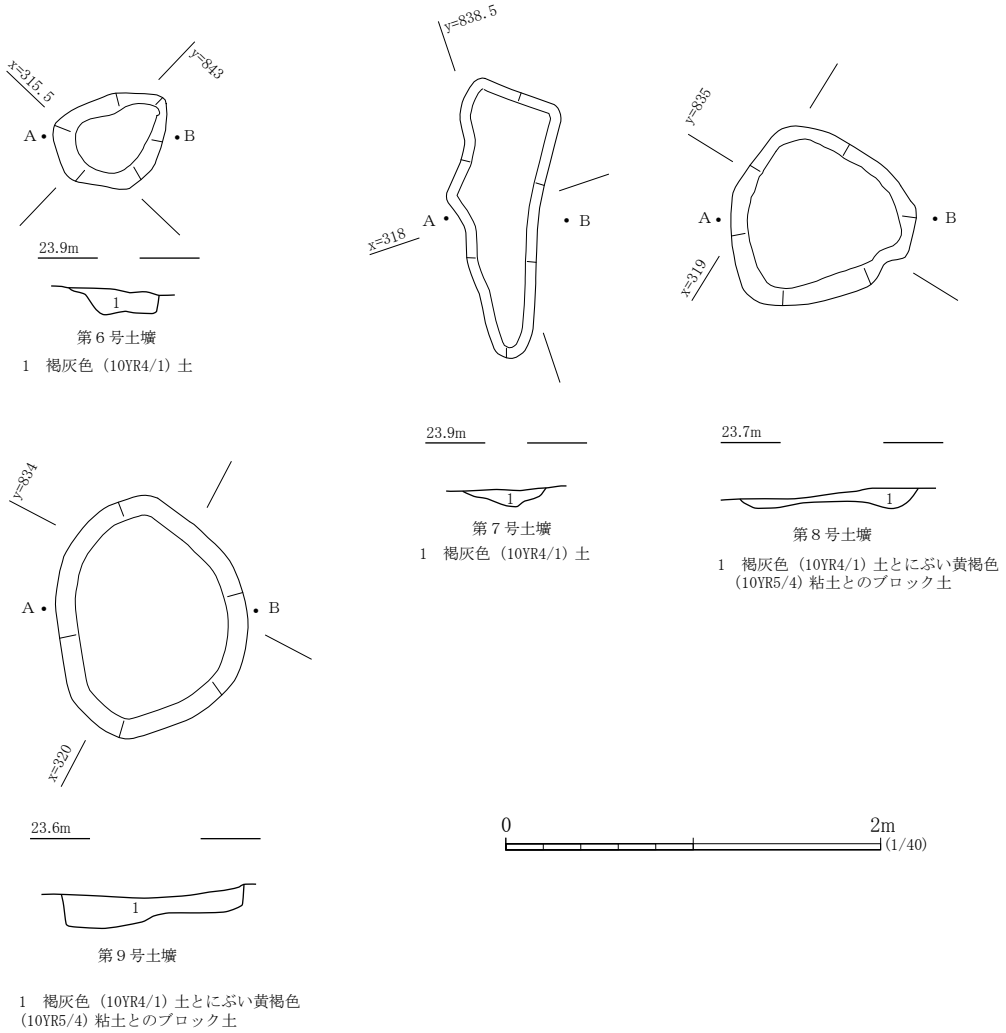


Fig.14　遺構平面図・断面図②

第 10 号土壙

平面形は楕円形で長軸 60 ㎝、短軸 48 ㎝、検出標高は 24.34 ｍで、深さは検出面から 15 ㎝、埋土は黒褐色（2.5Y3/1）土であった。出土遺物はない。

杭列（Fig. 8）

Ⅲ区で杭列１～４を検出した。断ち割って確認した杭は、検出面からの深さが３～17 ㎝であった。埋土が谷埋土２と近似していたこともあり、どの層から打ち込まれたものかは確認できなかったが、近世以後の棚田に関連する遺構の可能性が高い。

４　遺物

主な遺物を土器、石器別に報告する。

（１）土器

遺構出土土器（Fig.15 －１～2, PL.12）

１は第２号土壙出土の須恵器甕胴部。外面に平行叩き、内面に当て具痕が残る。２は第３号土壙出土の須恵器坏口縁部。

Ⅳ区縄文～弥生時代谷埋土１出土土器（Fig.15 －３～4,PL.12）

３・４は縄文土器深鉢胴部。後～晩期と考えられる。３は内外面に二枚貝条痕を施す。４は外面に二枚貝条痕、内面にナデを施す。

Ⅲ区縄文～弥生時代谷埋土１出土土器（Fig.15 －５～8,PL.12）

５は須玖式系鋤先口縁壺。口縁部が下垂する形状から、弥生時代中期末～後期初頭に位置づけられる。口縁部上面に４箇所円形浮文を貼り付ける。６は弥生土器甕。跳ね上げ口縁を呈し、５と同様、弥生時代中期末～後期初頭に位置づけられる。７は弥生土器甕。底面が小さくやや厚いことから、弥生時代後期に位置づけられる。８は弥生土器壺もしくは鉢の底部。弥生時代中～後期と考えられる。

試掘Ａトレンチ谷埋土２出土土器（Fig.15 －９～ Fig.17 － 35, PL.12 ～ 14）

９は須恵器甕頸～胴部。外面に平行叩き、内面に当て具痕が残る。10 は須恵器坏蓋片。径 1.9 ㎝の扁平なつまみが付く。11 は須恵器坏蓋か。内面に「×」のヘラ記号が見られる。12 ～ 15 は須恵器坏蓋。12、13 は口縁部内面にかえりを持つ。14・15 は口縁部を下垂させる。16 ～ 19 は須恵器高台付坏。16 は高台が高く、外側に張り出し内端部で接地する。内外面には丁寧な回転ナデを施す。底面に墨書が見られるが、本学人文学部　橋本義則教授に実見していただいたところ、字ではないとのことであった。17 は高台貼付部で剥離する。高台は外側に張り出す。18 は底－胴部境界よりやや内側に断面三角形の低い高台が付く。19 は底－胴部境界に断面方形のやや低い高台が付く。20 ～ 24 は須恵器高坏。20･21 は坏部で口縁部を外反させる。22 は脚～裾部。坏部との接合面で剥離しており、裾端部を下垂させる。23・24 は裾部片で、22 と同様に端部を下垂させる。25 ～ 30 は須恵器壺。25 は口縁部を外反させる。26 は口縁部が直線的に外反し、外面に２条の沈線を施す。27・28 は胴部片。27 は胴部中位の接合面で剥離する。屈曲部とその上位に２条単位の沈線を施す。29・30 は胴～底部。30 の底面には重ね焼き痕が残る。31 は須恵器甕口縁部。口唇部をつまみ上げる。32 ～ 34 は須恵器甕胴部。外面はいずれも平行叩き後、カ

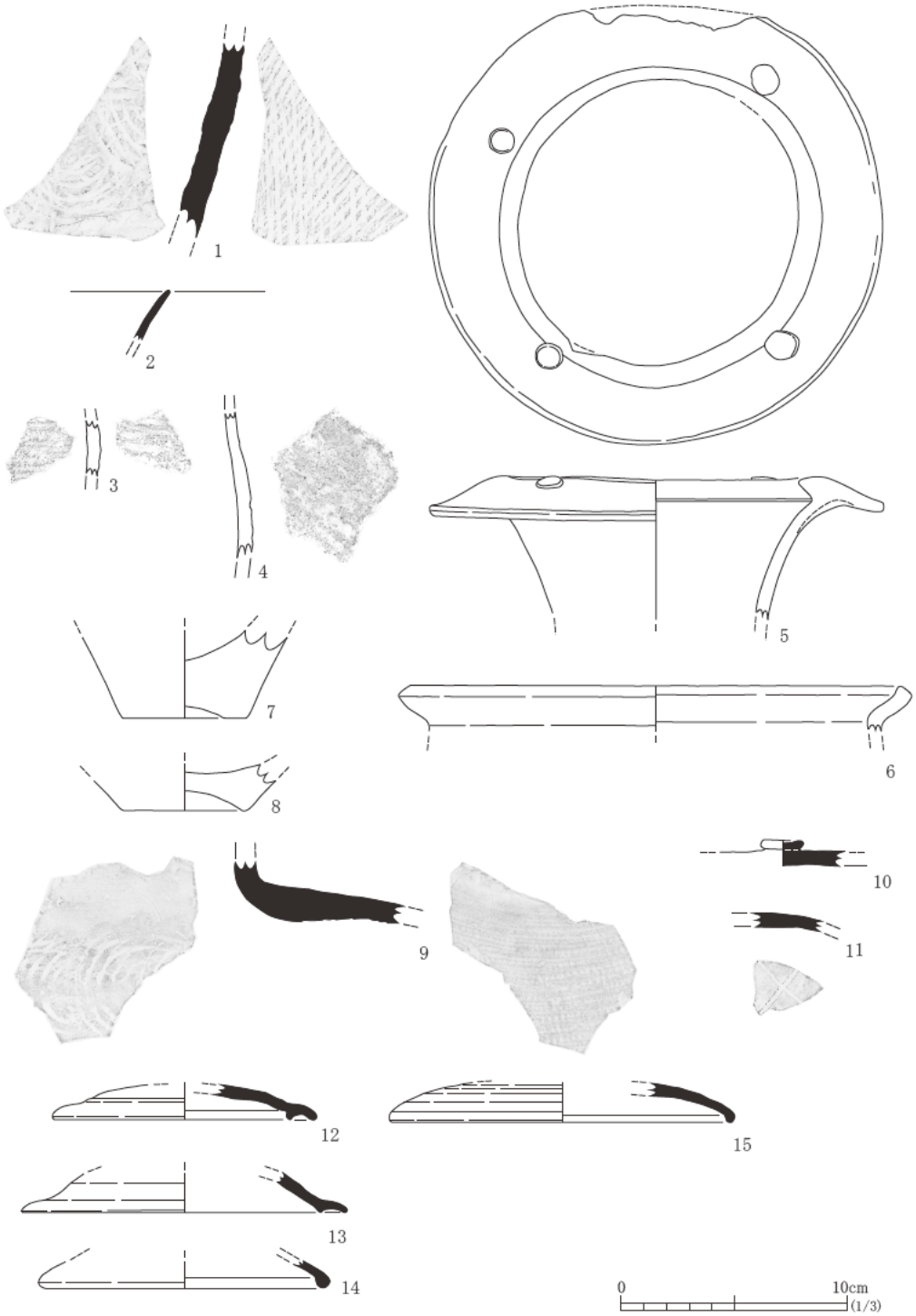


Fig.15 出土遺物実測図①

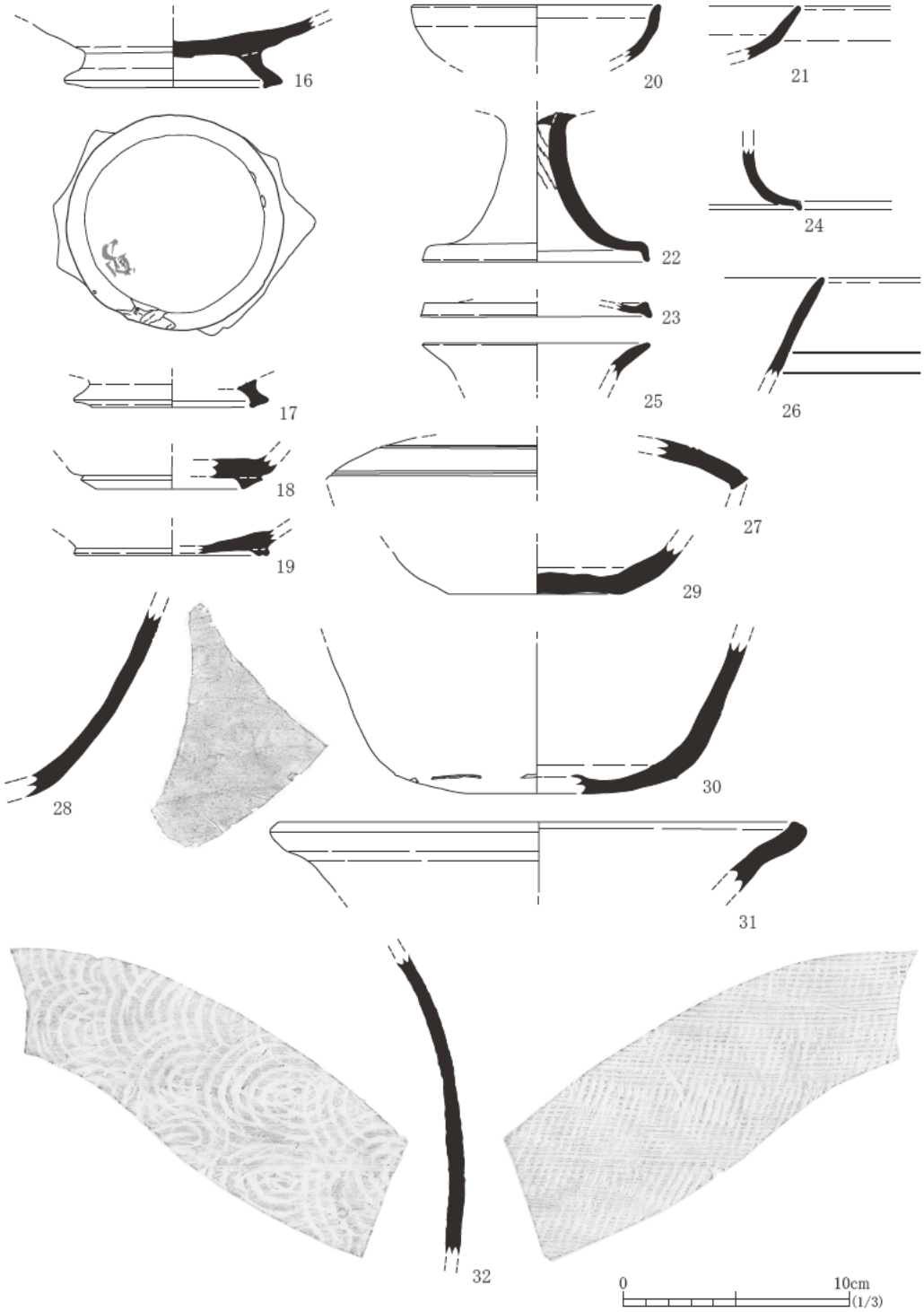


Fig.16 出土遺物実測図②

キメを施す。内面には当て具痕が残る。35 は平瓶の円盤閉塞部。器壁６㎜の胴部に厚さ５㎜の円盤を重ねて接合している。

Ⅰ区谷埋土２下位（Ｆ－Ｈ断面４層・Ⅰ－Ｊ断面 12 層）出土土器

（Fig.17 － 36 ～ 41, PL.15）

36 は土師器甕口縁部。37 は須恵器坏蓋。径 2.3 ㎝の扁平なつまみが付く。38 は須恵器高台付坏。高台が高く、外側に張り出す。39 は須恵器高坏坏～脚部。外面に２条のヘラ描沈線を施す。40・41 は須恵器甕。40 は口縁～頸部。口唇部は内湾気味に立ち上がる。41 は胴部～底部。外面は平行叩き後ナデを施す。内面にはあて具痕が残る。

Ⅰ区谷埋土２上位（Ｆ－Ｈ断面１・２層・Ⅰ－Ｊ断面１層）出土土器

（Fig.17 － 42 ～ 48, PL.15）

42 は須恵器坏蓋。口縁部を下垂させる。43 ～ 46 は須恵器高台坏。43 は底－胴部境界よりやや内側に外側に弱く張り出す高台が付く。44 は高台が高く外側に張り出す。45 は外側に張り出す高台が付く。端部をやや凹ませ、内端部で接地する。46 は端部を拡張した低い高台が付く。47 は須恵器高坏口縁部か。48 は須恵器甕口縁部。胎土は 0.5 ～ 1.5 ㎜大の砂粒を少量含むが比較的精緻で、焼成状況は良好である。口唇部に面取りを施す。

Ⅱ区谷埋土２下位（Ｅ－Ｆ断面５層）出土土器（Fig.18 － 49 ～ 51, PL.15）

49 は弥生土器甕底部。内外面とも風化が激しい。前～中期と考えられる。50 は須恵器坏蓋。焼成不良で、天井部は黒色を呈する。51 は須恵器高坏裾部。裾端部を下垂させる。

Ⅱ区谷埋土２上位（Ｅ－Ｆ断面５層）出土土器（Fig.18 － 52 ～ 56, PL.15・16）

52 は須恵器坏蓋。口縁部を下垂させる。53 は須恵器高台付坏。底－胴部境界よりやや内側に外側に張り出す高台が付く。端部を凹ませ、内端部をつまみ出している。54 は須恵器高坏坏部か。口縁部は内湾しながら立ち上がる。小片のため坏の可能性もある。55 は須恵器甕口縁部～胴部。口縁部を肥厚させ、口唇部に面取りを施す。口縁部内外面には回転ヨコナデを施し、内面には「×」のヘラ記号が見られる。胴部外面には平行叩き、内面には当て具痕が残る。56 は須恵器円面硯。試掘・事前調査出土土器が接合した。陸部は欠損するが､海部には墨が付着する。透かし穴は図の中心部で反転したものを図示した。

Ⅲ区谷埋土２上位（Ｅ－Ｆ断面５層）出土土器（Fig.18 － 57 ～ 61, PL.16・17）

57 は弥生土器甕底部。底部が外側に張り出し､上底である。中期中頃～末と考えられる。58 は須恵器坏蓋。口縁部内面にかえりを持つ。59 は須恵器高台付坏。高台が外側に張り出し、内端部で接地する。内底面に「⋀」のヘラ記号が見られる。60 は須恵器高台付坏。

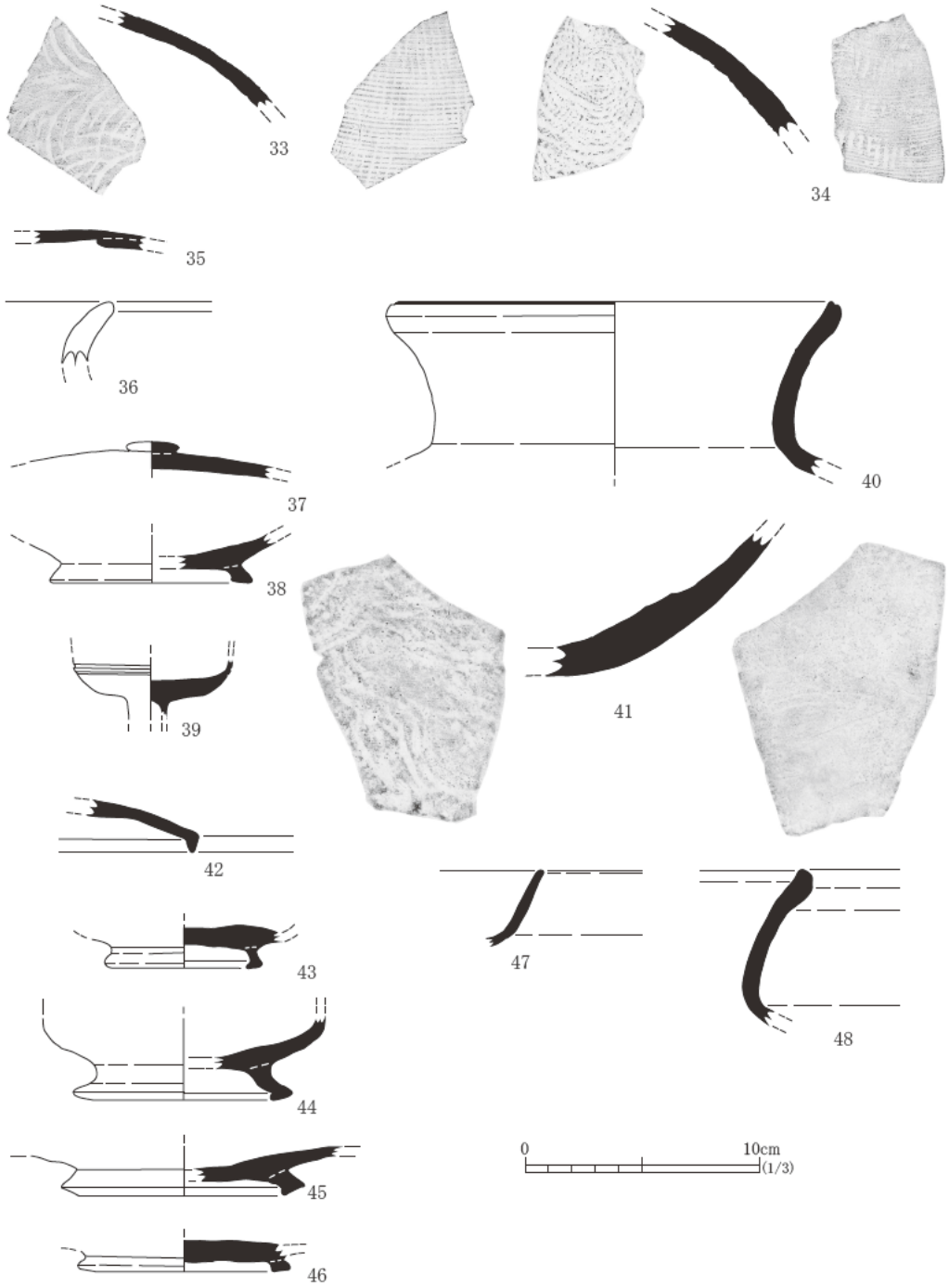


Fig.17 出土遺物実測図③

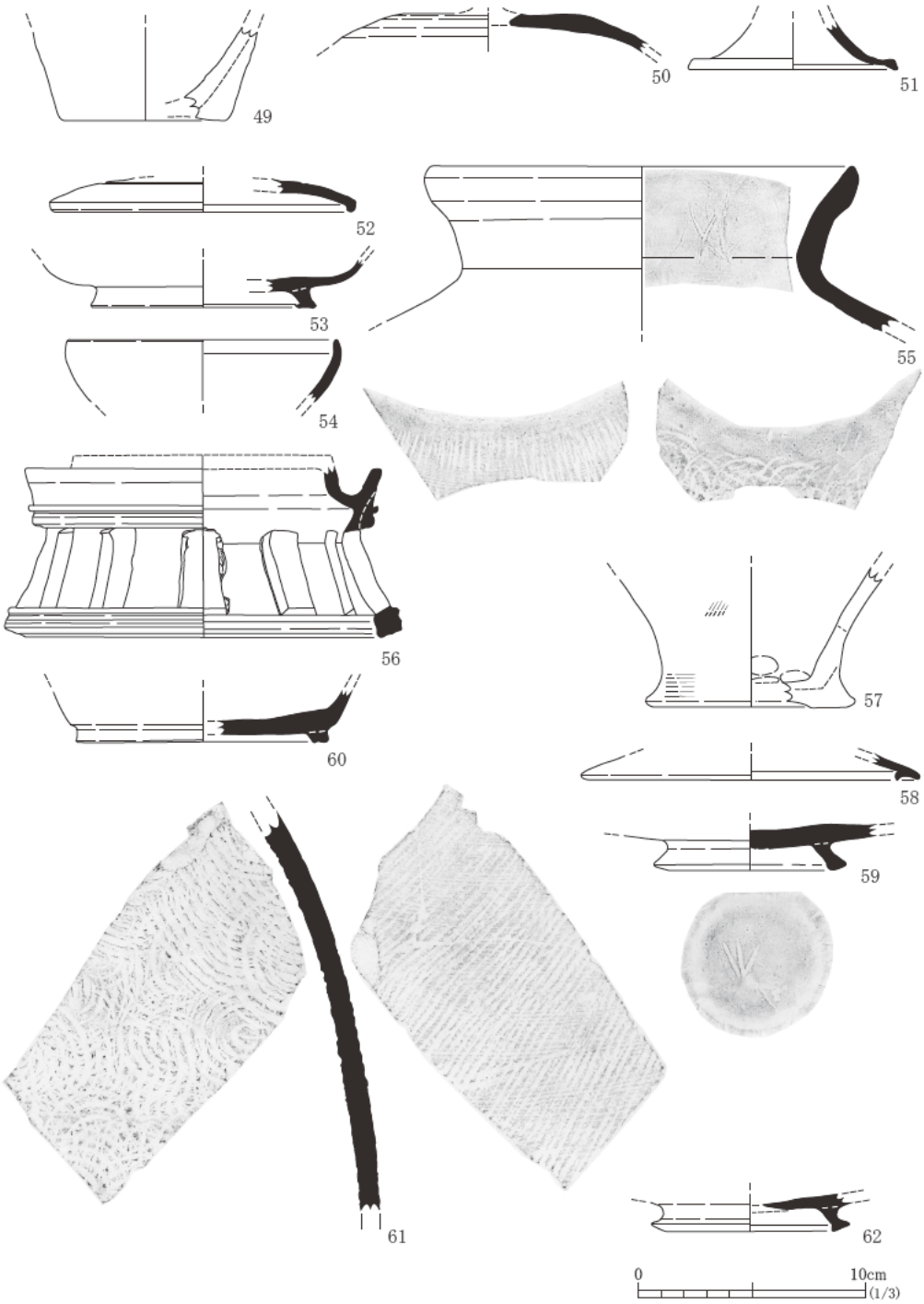


Fig.18 出土遺物実測図④

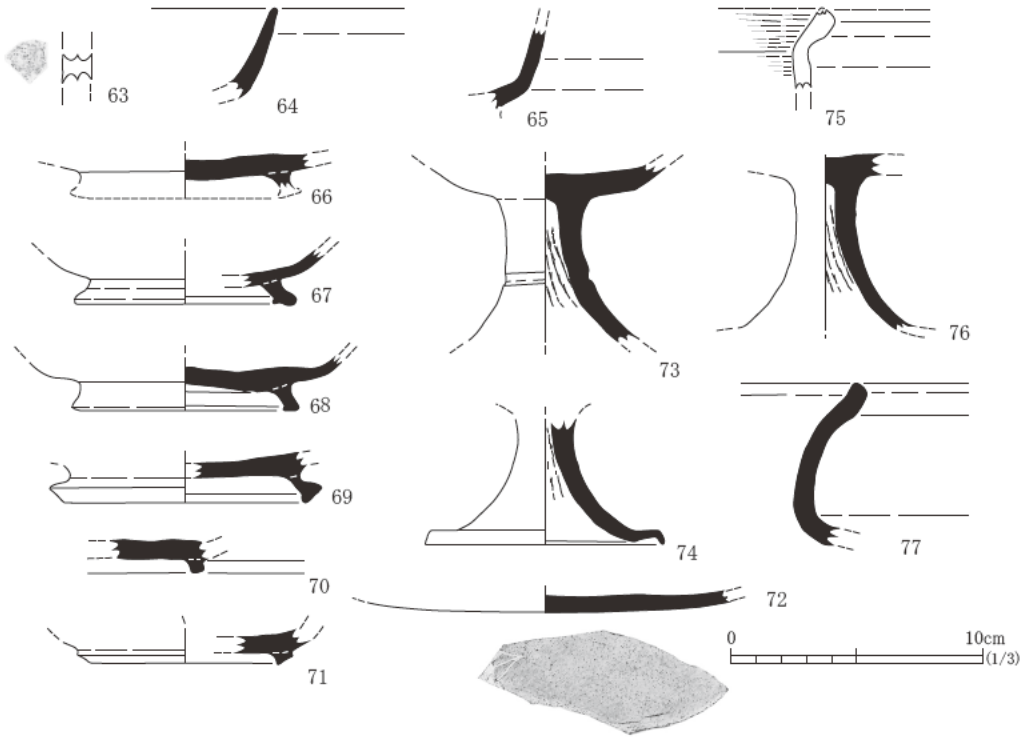


Fig.19 出土遺物実測図⑤

底－胴部境界に断面方形のやや低い高台が付く。61 は須恵器甕胴部。外面は平行叩き後、カキメを施す。内面には当て具痕が残る。

Ⅳ区床面清掃時出土土器（Fig.18 － 62, PL.17）

62 は須恵器高台付坏底部。高台が外側に張り出す。端部はつまみ出され、内端部で接地する。

谷埋土 1 出土土器（Fig.18 － 63 ～ 77, PL.17・18（1））

63 は出土地区不明。六連式製塩土器の胴部。内面に細かな布目痕が残る。64 ～ 75 は試掘Ａトレンチ出土。64、65 は須恵器坏。64 は口縁～胴部。65 は胴～底部で、高台接合部がわずかに残存する。66 ～ 71 は須恵器高台付坏底部。66 は端部を欠損する。67 ～ 69 は高台が外側へ張り出す。67 は端部を凹ませ、内外両端で接地する。68 は端部に面をとり、ほぼ全面で接地する。69 は端部をつまみ出し、内端部で接地する。70 は断面方形の高台が付く。71 は底－胴部境界に断面三角形のやや低い高台が付く。72 は須恵器皿の胴～底部で、外底面に「小」のヘラ記号が見られる。73 ～ 74 は須恵器高坏。73 は脚部に 1 条沈線を施す。74 は裾部で、端部を下垂させる。75 は瓦質土器足鍋の口縁部。76 はⅠ区出土

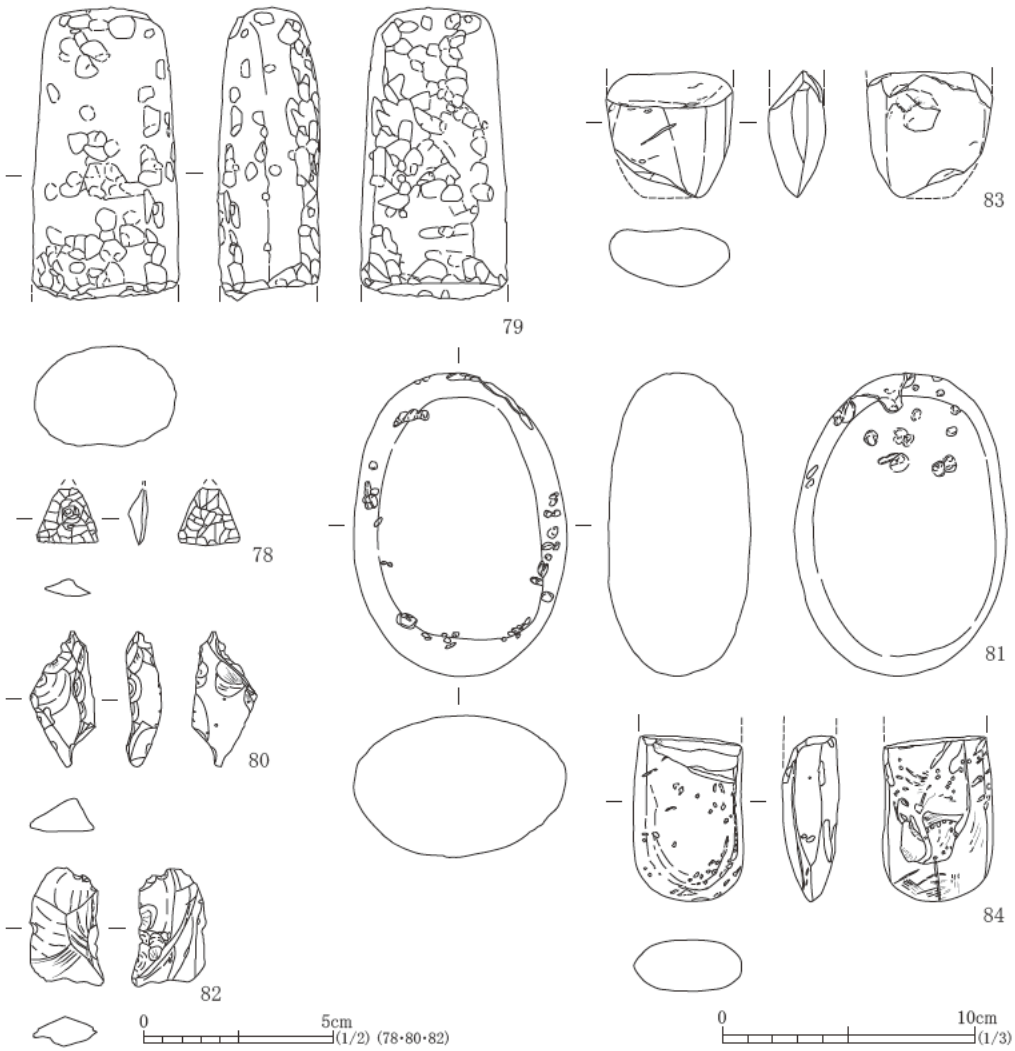


Fig.20　出土遺物実測図⑥

の須恵器高坏脚部。77 はⅢ区出土の須恵器甕口縁部。口唇部をつまみ上げる。

（２）石器（Fig.20, PL.18（2））

78 はⅣ区縄文～弥生時代谷埋土１出土の石鏃。石質は安山岩。79 はⅢ区縄文～弥生時代谷埋土１出土の磨製石斧。石質は安山岩。敲打痕があり、折損後転用したとみられる。80 はＡトレンチ谷埋土２上位出土の剥片。石質は黒曜石。旧石器の可能性もある。81・82 はⅡ区谷埋土２上位出土。81 は磨石・敲石。石質は安山岩。82 は剥片で、石質は姫島産黒曜石。83 はⅢ区谷埋土２上位、84 はⅣ区Ⅲ－１層出土。いずれも磨製石斧で、上半部を折損する。石質は粘板岩。以上の石器について、計測値は観察表を参照されたい。

5　小結

今回の調査の結果、調査区は埋没谷の中に位置することが判明した。弥生時代以降の遺構面形成層も縄文～弥生時代の谷の堆積土と考えられる。調査区では縄文～弥生時代谷埋土１から縄文土器（後～晩期の深鉢）、弥生土器（中期末～後期初頭の壺・甕）、石鏃、石斧が出土した。また、谷埋土２からは古代の土師器、須恵器、谷埋土１からは古代の土師器、須恵器、中世の瓦質土器が出土した。

今回調査区から約 100 m南東に位置する第Ⅱ地区第１調査区[1)]では弥生時代前期～終末期の土器が出土しており、弥生時代の遺構の存在が確実視されている。今回の弥生土器の出土も第Ⅱ地区周辺に当該期の遺構ないし集落が存在したことを裏付ける。

古代の遺物は谷埋土２・谷埋土１から大量に出土し、谷埋土１には中世の瓦質土器がわずかに含まれていた。これらの遺物は建物予定地外である調査区南東部のⅠ区から多く出土したことから、調査区南東部側から廃棄された可能性が高い。古代の遺物は時期比定が困難な小片が多いが、須恵器は８世紀前半～中頃が主体で、８世紀後半～９世紀前半（18、19、60、71 など）を少量含む。上記は動物医療センター敷地で谷が８世紀中頃には埋没を開始し、９世紀頃には窪地化していたとする調査成果[2)]と概ね一致する。また、須恵器には円面硯や墨書を持つものなど、官衙の存在を推測させる遺物も含まれていたことが注目される。以上から、谷は弥生時代中期末～後期初頭以降に堆積が進行し、古代を経て中世（15 － 16 世紀頃）には堆積が完了したとみられる。

検出した遺構のうち、用水路、水田暗渠、土壙２基は統合移転直前まで存在した棚田に伴うもので、杭列も上記に伴う可能性が高い。土壙 10 基については、埋土が直上に堆積していた谷埋土２に近似することから、地形の落ち込み部であった可能性がある。

以上の調査成果について、平成 12 年８月２日開催の埋蔵文化財資料館運営委員会で審議した結果、建物新営予定地で埋没谷は検出されたが、顕著な遺構･遺物が認められなかったことから、記録保存とすることが決定した。

［注］

1）山口大学埋蔵文化財資料館「吉田遺跡第Ⅱ地区の調査」（『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成17年度－』、2007年）

2）山口大学埋蔵文化財資料館「農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期工事に伴う本発掘調査」（『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成20年度－』、2010年）

Tab.2　出土遺物(土器)観察表

法量(　)は復元値

遺物番号	出土地区・遺構	層　位	器　種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色　調 ①外面②内面	胎　土	備　考
1	第２号土壙		須恵器　甕	胴部				①②灰色	0.5～1.5mmの砂粒を多量含む	
2	第３号土壙		須恵器　坏	口縁部				①灰色 ②灰白色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	
3	Ⅳ区	縄文～弥生時代谷埋土1	縄文土器　深鉢	胴部				①にぶい黄色 ②黄灰色	0.5～2mmの砂粒を多く含む	Ⅳ区C－D断面9層
4	Ⅳ区	縄文～弥生時代谷埋土1	縄文土器　深鉢	胴部				①にぶい黄色 ②灰色	0.5～1.5mmの砂粒を多く含む	Ⅳ区C－D断面9層
5	Ⅲ区	縄文～弥生時代谷埋土1	弥生土器　壺	口縁部	20			①にぶい黄橙色 ②浅黄色	0.5～4mmの砂粒を多く含む	須玖式
6	Ⅲ区	縄文～弥生時代谷埋土1	弥生土器　甕	口縁部	22.6			①②浅黄色	0.5～2mmの砂粒を多く含む	
7	Ⅲ区	縄文～弥生時代谷埋土1	弥生土器　甕	底部	5.4			①灰黄色 ②浅黄色	0.5～3mmの砂粒を多く含む	
8	Ⅲ区	縄文～弥生時代谷埋土1	弥生土器　壺もしくは鉢	底部	(5.4)			①灰白色 ②灰オリーブ色	0.5～3mmの砂粒を多く含む	
9	Ａトレンチ	谷埋土２	須恵器　甕	頸部～胴部				①②灰白色	0.5～1.5mmの砂粒を少量含む	Ｉ－Ｊ断面12層
10	Ａトレンチ	谷埋土２	須恵器　坏蓋	天井部				①②灰白色	0.5～1mmの砂粒をやや多く含む	Ｉ－Ｊ断面1～3層
11	Ａトレンチ	谷埋土２	須恵器　坏蓋か	天井部				①②灰白色	0.5mm以下の砂粒を少量含む	Ｉ－Ｊ断面1～3層 内面にヘラ記号あり
12	Ａトレンチ	谷埋土２	須恵器　坏蓋	口縁部	(11.6)			①黄灰色 ②灰白色	0.5～1.5mmの砂粒をやや多く含む	Ｉ－Ｊ断面1～3層
13	Ａトレンチ	谷埋土２	須恵器　坏蓋	口縁部	(14.4)			①灰白色 ②灰色	0.5～1mmの砂粒をやや多く含む	Ｉ－Ｊ断面1～3層
14	Ａトレンチ	谷埋土２	須恵器　坏蓋	口縁部	(12.8)			①灰色 ②灰白色	0.5～1.5mmの砂粒を少量含む	Ｉ－Ｊ断面1～3層
15	Ａトレンチ	谷埋土２	須恵器　坏蓋	口縁部	(15.0)			①②灰色	0.5～1.5mmの砂粒をやや多く含む	Ｉ－Ｊ断面1～3層
16	Ａトレンチ	谷埋土２	須恵器　高台付坏	胴部～底部	9.6			①②灰色	0.5～2.5mmの砂粒をやや多く含む	Ｉ－Ｊ断面1～3層 底面に墨書あり
17	Ａトレンチ	谷埋土２	須恵器　高台付坏	底部	7.0			①②灰白色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	Ｉ－Ｊ断面1～3層
18	Ａトレンチ	谷埋土２	須恵器　高台付坏	底部	(6.2)			①②灰色	0.5～1mmの砂粒をやや多く含む	Ｉ－Ｊ断面1～3層
19	Ａトレンチ	谷埋土２	須恵器　高台付坏	底部	(8.6)			①灰黄色 ②灰白色	0.5～1.5mmの砂粒をやや多く含む	谷埋土2上位
20	Ａトレンチ	谷埋土２	須恵器　高坏	坏部	(11.0)			①②灰白色	0.5～1mmの砂粒をやや多く含む	Ｉ－Ｊ断面1～3層
21	Ａトレンチ	谷埋土２	須恵器　高坏	坏部				①②灰白色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	Ｉ－Ｊ断面1～3層
22	Ａトレンチ	谷埋土２	須恵器　高坏	坏部～裾部	10.0			①②灰白色	0.5～1mmの砂粒をやや多く含む	Ｉ－Ｊ断面1～3層
23	Ａトレンチ	谷埋土２	須恵器　高坏	裾部	(10.2)			①②灰白色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	Ｉ－Ｊ断面1～3層
24	Ａトレンチ	谷埋土２	須恵器　高坏	裾部				①②灰白色	0.5～2mmの砂粒をやや多く含む	Ｉ－Ｊ断面1～3層
25	Ａトレンチ	谷埋土２	須恵器　長頸壺	口縁部	(10.0)			①②灰色	0.5～1mmの砂粒をやや多く含む	Ｉ－Ｊ断面1～3層
26	Ａトレンチ	谷埋土２	須恵器　長頸壺	口縁部				①②灰白色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	Ｉ－Ｊ断面1～3層
27	Ａトレンチ	谷埋土２	須恵器　長頸壺	胴部				①②灰白色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	Ｉ－Ｊ断面1～3層
28	Ａトレンチ	谷埋土２	須恵器　壺	胴部				①灰色 ②灰白色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	Ｉ－Ｊ断面1～3層
29	Ａトレンチ	谷埋土２	須恵器　壺	胴部～底部	(7.6)			①②灰白色	0.5～2mmの砂粒を少量含む	Ｉ－Ｊ断面1～3層
30	Ａトレンチ	谷埋土２	須恵器　壺	胴部～底部				①②灰白色	0.5～1.5mmの砂粒を少量含む	Ｉ－Ｊ断面1～3層
31	Ａトレンチ	谷埋土２	須恵器　甕	口縁部	(23.6)			①灰色 ②灰白色	0.5～1.5mmの砂粒を少量含む	谷埋土2上位
32	Ａトレンチ	谷埋土２	須恵器　甕	胴部				①②灰白色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	Ｉ－Ｊ断面1～3層
33	Ａトレンチ	谷埋土２	須恵器　甕	胴部				①②灰白色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	Ｉ－Ｊ断面1～3層

遺物番号	出土地区・遺構	層　位	器　　種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色　調 ①外面②内面	胎　　土	備　　考
34	Ａトレンチ	谷埋土2	須恵器　甕	胴部				①②灰白色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	Ｉ－J断面1～3層
35	Ａトレンチ	谷埋土2	須恵器　平瓶	天井部				①②灰白色	1mmの砂粒を少量含む	Ｉ－J断面1～3層
36	Ｉ区	谷埋土2 下位	土師器　甕	口縁部				①灰白色 ②浅黄色	0.5～3mmの砂粒を含む	
37	Ｉ区	谷埋土2 下位	須恵器　坏蓋	天井部				①灰白色 ②灰色	1～2mmの砂粒を少量含む	
38	Ｉ区	谷埋土2 下位	須恵器　高台付坏	底部	(8.7)			①②灰白色	0.5～1mmの砂粒をやや多く含む	壺の可能性あり
39	Ｉ区	谷埋土2 下位	須恵器　高坏	坏部～脚部				①灰色 ②灰白色	0.5の砂粒をやや多く含む	
40	Ｉ区	谷埋土2 下位	須恵器　甕	口縁部～頸部	(18.4)			①②灰白色	1～1.5mmの砂粒を少量含む	
41	Ｉ区	谷埋土2 下位	須恵器　甕	胴部～底部				①黄灰色 ②灰白色	0.5～1.5mmの砂粒をやや多く含む	
42	Ｉ区	谷埋土2 上位	須恵器　坏蓋	口縁部				①②灰白色	1～3mmの砂粒を少量含む	
43	Ｉ区	谷埋土2 上位	須恵器　高台付坏	底部	6.8			①②灰白色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	
44	Ｉ区	谷埋土2 上位	須恵器　高台付坏	胴部～底部	(9.4)			①灰白色 ②黄灰色	0.5～2.5mmの砂粒を少量含む	
45	Ｉ区	谷埋土2 上位	須恵器　高台付坏	底部	(10.4)			①灰色 ②灰白色	0.5～1.5mmの砂粒をやや多く含む	
46	Ｉ区	谷埋土2 上位	須恵器　高台付坏	底部	9.0			①②灰色	1mmの砂粒を少量含む	
47	Ｉ区	谷埋土2 上位	須恵器　高坏か	口縁部				①②灰白色	0.5の砂粒を少量含む	
48	Ｉ区	谷埋土2 上位	須恵器　甕	口縁部				①②灰白色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	
49	Ⅱ区	谷埋土2 下位	弥生土器　甕	底部	(7.0)			①にぶい黄橙色 ②灰黄色	0.5～1.5mmの砂粒を多量含む	Ⅱ区K-L断面2～4層
50	Ⅱ区	谷埋土2 下位	須恵器　坏蓋	天井部				①②灰白色	0.5～2mmの砂粒をやや多く含む	Ⅱ区K-L断面2～4層
51	Ⅱ区	谷埋土2 下位	須恵器　高坏	裾部	(9.0)			①灰白色 ②灰色	0.5mmの砂粒を少量含む	Ⅱ区K-L断面2～4層
52	Ⅱ区	谷埋土2 上位	須恵器　坏蓋	口縁部	(13.4)			①②灰白色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	
53	Ⅱ区	谷埋土2 上位	須恵器　高台付坏	胴部～底部	(9.8)			①②灰白色	0.5～1mmの砂粒を多量含む	
54	Ⅱ区	谷埋土2 上位	須恵器　高坏か	坏部	(10.6)			①②灰白色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	坏の可能性あり
55	Ⅱ区	谷埋土2 上位	須恵器　甕	口縁部～胴部	(18.4)			①②灰白色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	口縁部内面にヘラ記号あり
56	Ⅱ区	谷埋土2 上位	須恵器　円面硯	海～脚部		(15.6)		①灰色 ②明青灰色	0.5～1.5mmの砂粒を含む	年報ＸＶ・ＸVI Fig82-1と同一
57	Ⅲ区	谷埋土2 上位	弥生土器　甕	底部	(9.2)			①浅黄色 ②黄灰色	0.5～1mmの砂粒をやや多く含む	
58	Ⅲ区	谷埋土2 上位	須恵器　坏蓋	口縁部	(14.8)			①②灰白色	0.5～2mmの砂粒を少量含む	
59	Ⅲ区	谷埋土2 上位	須恵器　高台付坏	底部	8.4			①②灰白色	1mmの砂粒をやや多く含む	外底面にヘラ記号あり
60	Ⅲ区	谷埋土2 上位	須恵器　高台付坏	胴部～底部	(10.1)			①暗オリーブ灰色 ②灰色	0.5～1mmの砂粒をやや多く含む	
61	Ⅲ区	谷埋土2 上位	須恵器　甕	胴部				①②灰白色	0.5～1.5mmの砂粒をやや多く含む	
62	Ⅳ区	床面 清掃時	須恵器　高台付坏	底部	(8.6)			①②灰白色	1mmの砂粒を少量含む	
63		谷埋土1	六連式製塩土器	胴部				①灰色 ②にぶい橙色	0.5～2mmの砂粒を多く含む	
64	Ａトレンチ	谷埋土1	須恵器　坏	口縁部～胴部				①②灰白色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	
65	Ａトレンチ	谷埋土1	須恵器　坏	胴部～底部				①灰白色 ②灰色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	
66	Ａトレンチ	谷埋土1	須恵器　高台付坏	底部				①②灰白色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	
67	Ａトレンチ	谷埋土1	須恵器　高台付坏	胴部～底部	(8.8)			①②灰白色	0.5～1.5mmの砂粒をやや多く含む	

遺物番号	出土地区・遺構	層　位	器　　種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色　調 ①外面②内面	胎　　土	備　　考
68	Ａトレンチ	谷埋土1	須恵器　高台付坏	胴部～底部	(9.0)			①②灰白色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	
69	Ａトレンチ	谷埋土1	須恵器　高台付坏	底部	(9.6)			①灰色 ②灰白色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	
70	Ａトレンチ	谷埋土1	須恵器　高台付坏	底部				①②灰色	0.5～1mmの砂粒をやや多く含む	
71	Ａトレンチ	谷埋土1	須恵器　高台付坏	底部	(7.4)			①灰色 ②灰白色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	
72	Ａトレンチ	谷埋土1	須恵器　皿	胴部～底部				①灰白色 ②灰色	0.5～1mmの砂粒をやや多く含む	外底面にヘラ記号あり
73	Ａトレンチ	谷埋土1	須恵器　高坏	坏部～脚部				①②灰白色	0.5～1mmの砂粒をやや多く含む	
74	Ａトレンチ	谷埋土1	須恵器　高坏	裾部		(9.6)		①②灰白色	0.5～1mmの砂粒を多く含む	
75	Ａトレンチ	谷埋土1	瓦質土器　足鍋	口縁部				①②灰色	0.5～4mmの砂粒を少量含む	
76	Ⅰ区	谷埋土1	須恵器　高坏	坏部～脚部				①②灰白色	0.5～1.5mmの砂粒をやや多く含む	
77	Ⅲ区	谷埋土1	須恵器　甕	口縁部				①②灰白色	0.5～1.5mmの砂粒をやや多く含む	

Tab.3　出土遺物（石器）観察表

遺物番号	出土地区・遺構	層　位	器　　種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石　　質	備　　考
78	Ⅳ区	縄文～弥生時代谷埋土1	打製石鏃	1.5	1.6	0.4	0.66	安山岩	
79	Ⅲ区	縄文～弥生時代谷埋土1	磨製石斧	11.4	5.8	3.9	494.6	安山岩	
80	Ａトレンチ	谷埋土2下位	剥片	3.6	1.7	0.85	3.81	黒曜石	Ⅰ区Ⅰ－J断面8～11層
81	Ⅱ区	谷埋土2上位	磨石・敲石	12.0	8.4	5.6	818.9	安山岩	
82	Ⅱ区	谷埋土2上位	剥片	3.1	1.8	0.7	3.3	姫島産黒曜石	
83	Ⅲ区	谷埋土2上位	磨製石斧	5.0	5.0	2.25	61.83	粘板岩	
84	Ⅳ区	Ⅲ－1層	磨製石斧	6.6	4.3	2.0	98.2	粘板岩	

第３節　立会調査

調査地区　吉田構内　Ｒ－19、Ｓ－20

調査期間　平成13年８月17日

Fig.21　調査区位置図

調査面積　約１㎡

調査結果　総合研究棟新営工事に伴い、工事中の電源を確保するために、仮設電柱を設置することになり、立会調査を行った。電柱はＡ～Ｃの３地点で設置された。Ａ地点は試掘調査Ａ調査区の東側に位置する。上面を除去した関係で、現地表下60㎝までが旧耕土・河川埋土、以下60㎝～100㎝が弥生時代以降の遺構面形成層である黄褐色粘土で、100～200㎝が緑灰色シルトであった。

Ｂ地点は現地表下136㎝までが造成土で、以下136～146㎝が黒色粘土、146～186㎝が弥生時代以降の遺構面形成層である青灰色シルトであった。黒色粘土は谷埋土と考えられる。Ｃ地点では、現地表下110㎝までが造成土で、以下110～160㎝が弥生時代以降の遺構面形成層である黄橙色粘土、160～210㎝が赤褐色粘土（風化した片岩含む）であった。また、造成土から須恵器片が出土した。以上の調査地点では、工法上、土層の詳細な観察はできなかった。